

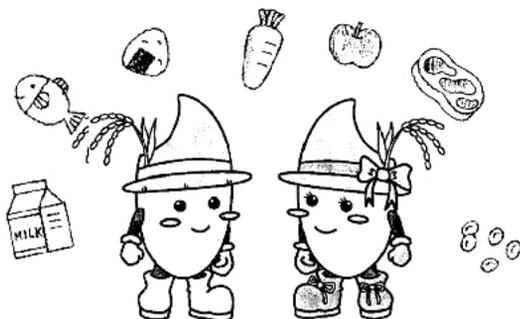
先日ラジオで、滞納している給食費を支払う代わりに、自分の子どもには「いただきます」と言わさないでほしいという話を聞いた。人間は、生命を維持するために食事をする。そのための食材は、いろいろなものの命だったり、人が大切に育ててくれたものだったりする。ありがたいという思いの湧く食材こそ、私たちのからだも心も満たされる食事であると思うのは私だけだろうか。

今、私たちは、飢えを知らず当たり前のように食事をする。豊かな食材の種類や満足のできる量があり、自分の好みに合った食事をしている。好き嫌いも当然のように通る。しかし、世界のあちこちでは、飢えに苦しんでいるたくさんの人々が、食べ物をめぐるさまざまな思いで暮らしている現実がある。今はまだ満足な食事をしている私たちにも、いつかそんな思いをする日がくるかもしれない。同時に、食事ができることへの感謝の気持ちや常にならざる、食事に向かう姿勢を大切にしたいと思う。そして、「孤食」や「個食」などの漢字で表現される食卓が少しでも減り、ぜいたくではなくても豊かな愛情のある食卓が増えることを願いたい。

原発事故による放射能の汚染や、

食

風評被害がニュースで報道される。また、天災による不作も食材への影響が懸念されている。私たちは、今こそ「食の大切さ」を見直す機会なのではないだろうか。



南国市食育キャラクター
こめおくん まいちゃん

デザイン：高知東工業高等学校美術マンガ部

*このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願います。人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは、

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで